

全国肢体不自由特別支援学校PTA連合会

第91号(総会特集号)

平成21年12月28日発行

会報

(発行)

全国肢体不自由特別支援学校PTA連合会
〒162-0051 東京都新宿区西早稲田2-2-8
(社会福祉法人 全国心身障害児福祉財団内)
電話 (03) 5272-1210
FAX (03) 5272-1213
ホームページアドレス <http://www.zsp.jp/>

第52回 宮崎大会が終わりました 次期山形大会の 準備もはじまりました



全国肢体不自由特別支援学校PTA連合会
会長 濱川 浩子
(東京都立墨東特別支援学校PTA会長)

今年度最後の会報になりました。今年の夏は南国宮崎で、52回目の全国大会が行なわれ、すでに次期大会も会場の準備が進んでいます。平成22年は北海道・東北ブロックで開催する、平成22年度「第53回山形大会」へ皆様をお迎えします。皆様のお陰で、盛会に宮崎大会を終え、次期全国大会の引継ぎができましたこと感謝申し上げます。

さて、皆様にお伝えしたいことはたくさんあるのですが、この会報が配布されます、平成22年1月には、21年度の第二回目の役員会があります。

次年度に向けて、各ブロックを代表し、理事・評議員のPTA会長さんや校長先生が集まります。

ここでは、21年度の総括や22年度に向けての計画案などが話し合われます。国庫補助事業の説明や各ブロックの準備等の説明もこの役員会でいたします。

さて、報道関係のニュースなどでご存知ではあると思いますが、新政権の下で、事業仕分け作業が行なわれました。この中に「義務教育費国庫負担」が入っております。この時は大変驚きました。教育費が仕分けされるとはどのような事なのか理解できませんでした。特別支援教育課の齋藤尚樹課長のお話によると、特別支援教育については今まで以上に、早急に取り組むようにと、激励とも思える説明だったそうです。



それでも、財務省からは教育費の増額は難しいとの回答であるそうです。私達PTAは、議員さんたちに向かつての直接陳情等は難しいのですが、各障害種別団体が加盟する全国特別支援教育推進連盟は総ての団体の要望を取りまとめ、国へ陳情しています。

この中には、主に教育、福祉などを中心に項目を挙げていますが、もちろん義務教育費国庫負担も制度として確保すること、そして教育費がどのような役割を持つていることなども含めて要望しています。

政権が交代しても、子ども達の大切な義務教育費国庫負担の確保が必要であることには変わりはありません。新しい政権下でも、このことは理解されると思っています。情報を逃さないようにアンテナを張っていきましょう。

【全肢P連会報 編集コラム】

夏が終わり、秋の気配と冬が一緒に来てしまったような気がします。今回の会報は、群馬県から保護者研修会の報告と、保護者の皆様にはなかなか情報が伝わらない校長会の全国大会があります。これは、PTAと合同の全国大会とは別に行なわれている、全国特別支援学校肢体不自由教育校長会《三重大会》の様子を掲載いたしました。また、障害者週間の取り組みとして、肢体不自由児・者の美術展が開催されました。翌日には、いつも当会の全国大会に御出席いただく、全国特別支援教育推進連盟の振興大会がありました。合わせてご報告をさせていただきます。ぜひ、ご一読ください。

《事務局長 佐竹京子》

保護者研修会【平成二十一年度 国庫補助事業】 「進路講演会」を実施して

主催 全国肢体不自由特別支援学校PTA連合会
開催校 群馬県立あさひ養護学校PTA

一 はじめに

秋のさわやかな一日。九月十日に、保護者研修会として「進路講演会」を実施しました。

講師として、「ぶどうの木」事業所長、森村三美様と森村様のお子さんであり、本校卒業生の森村大地さんをお招きしました。四十名を超える保護者が、三美様の講演「ぶどうの木の設立について」と、大地さんのサックスの演奏に耳を傾けました。

二 森村様親子の紹介

森村様親子は、群馬県伊勢崎市に生まれ、現在もお住まいです。

三美様は、障害のある大地さんのためにキヤッチ療法に取り組み、群馬県伊勢崎市にNPO法人キヤッチ・ジャパンを設立されました。そして、大地さん卒業後、指定障害福祉サービス事業所「ぶどうの木」を設立されました。また、『うたえ君の心へ（大地とキヤッチとサックスと）』の著書もあります。

大地さんは、生後まもなくしろう紅熱にかかり、脳性まひになりました。小学部から高等部まで十二年間、本校で学びました。十三歳からサックスを習い、卒業後は、ソロ活動も行っています。二十歳記念CD制作

作も行いました。現在二十一歳。「ぶどうの木」へ通所しています。



講演の様子
～お話に耳を傾ける参加者～

三 講演「ぶどうの木の設立について」

短い時間でしたが、大地さんの成長の足跡や施設立ち上げのお話を伺うことができました。以下、概要を紹介させていただきます。

大地は、生後まもなく、GBS感染症にかかり、いわゆるしろう紅熱ですが、脳性まひという障害を負いました。一歳数ヶ月の時、脳障害を回復させるイギリスのキヤッチ療法に出会いました。訓練を続けるため

には人手がいります。家族だけでは大変で、伊勢崎女子高校のJRC部がボランティアをしてくれる等、周りの人達の支えにより訓練に取り組んできました。訓練を続ける中で、ひとりりで歩けるようになりました。小学校に入る年齢になった大地は、あさひ養護学校に入学しました。四年生になる頃、数字が覚えられるのではと言われ、一年かかって何とか覚ええました。次に、ひらがなを学習しました。その頃から学校の方で、大きなキーボードを使ったパソコンを練習したりしました。

ある時、サックスのプロに「大地君は音感が優れている。ピアノをやったら。」と勧められ習い始めました。その後、「サックスなんか呼吸器が強くなっているんじゃないの。」と勧められ、本格的に始めました。最初は、音は出ませんでした。毎日、数時間練習しています。私が曲を教えると、大地は一回で音覚えてしまうのです。やっぱり音感があるのかと思いました。それから、キヤッチのチャリティーコンサート等、演奏活動を行うようになりました。プロのジャズベーシストである藤原清登さんと共演する機会もありました。

高等部の時、実習があつてある施設に行きました。しかし、卒業する頃は満員で入れないと言われました。どうしようかと知人に話すと、「作っちゃえば。」と言われ、本気で考え準備を進めました。県からは、伊勢崎市は授産施設がないからいいですよと言われましたが、最初の一年では出来ませんでした。社会福祉法人を作るには労力とお金が掛かり大変です。それでも一年

待つてできました。

施設を作るときに「ぶどうの木」と名付けたのですが、これは、聖書の中にあるのですが、ぶどうは同じつるに繋がっている、みんな同じように生活したいという思いからつけました。

保護者の方から、卒業後、子供の行くところが無いという話を聞きましたが、地域活動センターというものを市に働きかけてみるのも法律的には可能です。

ご静聴ありがとうございました。

四 サックスの演奏

大地さんの演奏の前に、DVD（群馬テレビで放映された番組の録画）を視聴しました。幼い大地さんが訓練を受けている様子、コンサートの様子、コンサートに来た人の感想等が収められていました。成長を映像からも感じました。

ステージに立った大地さんは、堂々としていて素敵です。毎日の練習から得た自信や支援者の温かい応援、ご家族の愛情が力となっているのだと感じました。



サックスとギター
～親子共演！～



サクソスの演奏の様子
～サクソスの音色に引き込まれる～



「グリーンスリーブス」
「G線上のアリア」
「星に願いを」
「エーデルワイス」
「リベルタンゴ」
「オー・シャンゼリゼ」
お父様のギターに合わせ、一曲一曲を大切に演奏してくれました。そして最後に、校長先生のピアノとの共演
「アベ・マリア」で幕を閉じました。
大地さんが演奏した一曲一曲に、会場からは大きな拍手がおくられました。お父様との演奏も、校長先生との共演も、素敵でした。お互い目に見えない呼吸を大事にしながら演奏しているのが伝わってきました。
会場が温かい音と人の心の輪でいっぱいになった演奏会でした。

五 参加者の感想

参加してくださった保護者の方に感想をお願いします。多くの方から感想をいただきました。いくつかを原文のまま紹介させていただきます。

◆普通の子でも、なかなか就職が厳しいこの時代です。肢体不自由の子の就職はもっと厳しいのではないのでしょうか。これからの高等部卒業後の進路は、私たち親にとつて、とても不安があります。入所できる施設があるのでしょうか。現状で、どこも施設も定員いっぱいということになります。今回の講演を聞いて、「自分で建てちゃえばいい」という考えを、実際に実行するのはいろいろ大変なことがたくさんあったと思います。そう簡単にできることではありません。が、自分の子が将来行くところがない。となったら、私もできることならそうしたと思うかもしれません。できることならですが…。
森村さんも子供への思いいぶどうの木なのではないでしょうか。大地君も親の愛に込めるようにサクソスの演奏楽しんでいるなあ。と個人的に勝手に想像して聞かせていただきました。

◆今回、森村三美さんの講演並びに大地さんのサクソス演奏会に参加させていただきました。講演会では、子どもに向き合う親としての姿勢等、大変学ぶべき事が多く、続いている演奏会でも親子の息の合った演奏、また大地さんは演奏する曲はすべて暗記していて楽譜なしで演奏されるといって驚きと感動、大変癒される演奏会だったように思います。なかでも「星に願いを」は、生後間もない保育器の中の我娘に最初に贈ったオルゴールの曲で、我が家にとつても想いの曲。立派に成長された大地さんに当時の我娘の映像を振り返るとともに、成長するこれからの我娘の姿を重ねつつ感慨に

浸った一時を過ごすことができました。
◆学校卒業後の我子の進路について、親は誰しも悩みをかかえております。そんな中、この進路講演会に参加させて頂きました。森村さんのお話に、みずから行動を起こさなければ、何も始まらないのだということを感じました。大地君のサクソスの演奏にも人の可能性は無限であることを感じ、その努力のすばらしさに感動しました。すばらしい演奏をありがとうございました。

◆先日の森村大地くんによる、力強く優しいサクソスの演奏には、久しぶりに鼻の奥がツーンと痛くなると同時に、心の中がポツと温かくなり、心身共に癒された時間となりました。呼吸器を強くするために始めたサクソス。訓練を重ね、脳性まひを乗り越え、今ではこんなにも人を感動させる演奏ができるほどにまでになった大地くん！すごいなと思いました。演奏を聞いて、図々しくも「もしかして、自分の子にもまだ目覚めていない才能があつたりして？」と思つてしまつたりして…(笑) 今回、大地くんからは「あきらめない。ことと勇気と希望をもらった気がします。素敵な時間をありがとうございました！」

◆出席できて良かったです。良い音楽も聞けたし、こんなに素晴らしい親子の存在も知つて、視野も広がりました。英国式キヤッチ療法つてすごいナ〜と思いました。あの勢いにはびっくりしました。

◆講演で、幼い頃からの話を聞いた後だったので色々なことを想像しながら曲を聞いていました。とても力強く、なにより楽しんで演奏していることに感動しました。

親子一緒に夢や希望を持ち、積み重ねていくことが大事なんだなと思えました。とはいえ、親としてなかなか出来ない私…。短い時間の中で気付きと反省…。色んな気持ちになりました。参加して良かったです。
他に、「ぶどうの木」の設立の『設立』の部分の話がもつと詳しくあればよかつた。残念だつた。」という感想もありました。

六 おわりに

「ぶどうの木」は地域の方々とふれあいながら障害者ひとり一人の可能性を見出し社会へ出て行けるよう共に歩んで行くところです。…これは、リーフレットの表紙に書かれている言葉です。
今回の保護者研修会で、私達は、子供の可能性、親子関係、卒業後の生活等について、考えたり見つめ直したりするきっかけを得ることができました。
そして、心が癒され温かくなっていく自分と向き合った時間でもありました。
大地さんの演奏には、本校の子供たちも静かに引き込まれるような表情をして聴き入っていたのが印象的でした。
素敵な時間を共有できたことに感謝しています。



サクソスとピアノ
～ピアノは校長先生です！～

第五十五回全国肢体不自由教育校長会

研究協議会「三重大会」報告

平成二十一年十一月十八日から二十日の三日間の日程で、三重県四日市市において、第五十五回全国肢体不自由教育研究協議会「三重大会」が開催されました。

例年、秋に行われるこの大会では、第一日目が、全国特別支援学校肢体不自由教育校長会（以後、全肢長と表記）の研究協議会の場となっています。また、二・三日目は、全国肢体不自由教育研究協議会として、第一日目参加の校長に加え、全国から肢体不自由教育に携わる教員や関係者総勢五百余名が参加する全国規模の重要な大会となっています。

本誌面をお借りして、今回の全肢長研究協議会の概要についてご紹介します。

日程 平成二十一年十一月十八日（水）
会場 三重県 四日市都ホテル
対象者 全国の肢体不自由特別支援学校学
 校長
参加 百二十八名
内容 一日のプログラムはこのような構成になっています。

開会式
 全体研究協議会
 専門委員会（8）・特別委員会
 代表者研究協議会
 分科会（2）

各会議等の概略を以下にまとめてみました。

〈開会式〉

1 開式のごは
 2 会長挨拶 全肢長会長 土井 富夫

3 主管校校長挨拶 三重県立特別支援学校 北勢きらら学園校長 内田 純子

4 来賓祝辞 文部科学省初等中等教育局 特別支援教育課 特別支援教育調査官 下山 直人氏

5 閉式のごは 全肢長会事務局次長 田添 敦孝

6 日程説明 全肢長会 事務局次長 田村康二朗
 東京都立墨東特別支援学校校長 田添 敦孝

〈全体研究協議会〉
 テーマ「特別支援教育の発展のため肢体不自由教育が担うべき役割と学校経営の在り方」

1 発表

提案「やさしい学校づくりの5＋5年間」
 ～誰もが居心地のよい教育環境とは～
 東京都立あきる野学園校長 池田 敬史

2 指導助言及び行政説明
 文部科学省初等中等教育局 特別支援教育課特別支援教育調査官 下山 直人氏

〈専門委員会〉

①教育課程専門委員会
 協議主題 特別支援教育の発展と教育課程上の課題
 黒川 正一

②法制制度専門委員会
 協議主題 特別支援教育の発展と法制制度上の課題
 埼玉県立 日高特別支援学校校長 黒川 正一

③施設設備専門委員会
 協議主題 特別支援教育の発展と施設設備上の課題
 協議主題 特別支援教育の発展と人事厚生上の課題
 協議主題 特別支援教育の発展と進路福祉上の課題

④人事厚生専門委員会
 協議主題 特別支援教育の発展と人事厚生上の課題

⑤進路福祉専門委員会
 協議主題 特別支援教育の発展と進路福祉上の課題

⑥支援連携専門委員会
 協議主題 特別支援教育の発展と支援連携上の課題

〈特別委員会〉
 ○基本問題検討委員会

協議主題 特別支援教育の発展による新たな教育の創造

〈代表者研究協議会〉

対象 会長・事務局次長・事務局次長各
 地区 会長・地区理事・事務局理事・評議員・監事

議長 岐阜県立関特別支援学校校長 各務 賢一
 東京都立八王子東特別支援学校校長 田村康二朗

〈第一分科会「学校経営」〉
 提案1「専門性の向上と地域への支援」
 福島県立郡山養護学校校長 渡邊 世子

提案2「知的障害者と肢体不自由者が共に学び合う学校」
 鹿児島県立出水養護学校校長 福田 孝志

司会 富山県立富山養護学校校長 佐藤 鉄朗
 伊丹市立伊丹特別支援学校校長 橋詰 和也

〈第二分科会「研究研修・教育課程」〉
 提案1「分かる力を育てるために」
 授業力向上1000日プラン
 東京都立八王子東特別支援学校校長 田村康二朗

提案2「学校現場における協働」
 ～専門職教員を活かす～

神奈川県立座間養護学校校長

杉本由美子

司会 広島県立西条特別支援学校校長

小田 和博

長崎県立諫早養護学校校長

山本 学

全肢長会の活動は、年間を通じて担当別に様々行われていますが、全ての校長会員が参加できる会合は、例年、六月に行われている全国特別支援学校校長会の中で設定されている肢体不自由校長会の総会と、この秋の研究協議会の二回のみです。春の会合は、総会議事が大半で、研究協議の時間は十分には取れないのが現状です。一方、この秋の大会は肢体不自由教育的を絞った会であることと、二学期後半という時期もあり、その年度に各校が進めている学校経営の実践や教育実践を持ち寄り、時間をたっぷりとって率直に協議や情報交換し合えるよさがあります。

では、今回の校長会研究協議会で行われた説明や提案の一部をご紹介します。

〈全体研究協議会 提案より抜粋〉

「やさしい学校づくりの5+5年間」

誰もが居心地のよい教育環境とは、

東京都立あきる野学園校長

池田 敬史

○やさしい学校づくり・・・

そのための校長のアクションとは。

子どもを知る 親を知る 地域を知る 教師を知る アクションの大事なエキス 立ち話と耳寄りな話 知らないことは聞けば

いい 常にありがとうとごめんなさいをアラウンド・アラウンドを大切に 授業を見る 授業に介入する 行事に参加する 知っていてくれる事 それは信頼を生み、共同につながる そして聞く姿勢を育てる

〈第一分科会 第一提案より抜粋〉

「専門性の向上と地域への支援」

福島県立郡山養護学校校長

渡邊 世子

○専門性向上を支えるために

校長は、背中を見せ、積極的に参加し、そして助言する。あらゆる成果を職員とともに喜び合える環境づくりを行う。

○地域支援を支えるために

校長は、関係機関との橋渡しを積極的に行い、きめ細かな連携を推進する。関係職員と平日頃から共通理解を十分に行い、ともに喜び合える環境作りを行う。教育支援部と多くの職員が参加し、自分を磨き、相談技法の向上を図るための支援体制作りを行う。校長も積極的に参加する。

〈第一分科会 第二提案より抜粋〉

「知的障害者と肢体不自由者が共に学び合う学校」

鹿児島県立出水養護学校校長

福田 孝志

一つの学校の中に、障害種は違うけれども時を同じくして、また、場を同じにして生きる児童生徒が在籍するという事実を積極的に受け止め、年に数回の学校行事を一緒にするということだけでなく、可能な限り日常の授業においても児童生徒同士が共に

に学び会い、励まし合う活動を設定していきたい。

〈第二分科会 第一提案より抜粋〉

「分かる力を育てるために」

「授業力向上1000日プラン」

東京都立八王子東特別支援学校校長

田村康二郎

○具体的な到達目標を提示する。

○児童・生徒向けの通知表を工夫する

○授業参観ガイドを事前配布する。

○授業者支援システムを導入する。

○授業者支援会議による具体的改善

○授業力向上研修を導入する。

○校長企画模擬指導演習型研修

○公開研を充実させる。

授業者支援会議システムの解説・演示 授業改善ハンドブック提供 視覚支援を視点とした学習環境作公開

〈第二分科会 第二提案より抜粋〉

「学校現場における協働」

「専門職教員を活かす」

神奈川県立座間養護学校校長

杉本由美子

○意識改革「ブロック（エリア）での活動をめざす」

神奈川県は、特別支援学校における児童生徒の障害の重度化・多様化、また、地域の支援が必要な児童生徒に対応することを目的として、専門職の導入を開始した。専門職が配置されるのであるから、今までは違った効果を受けねばならない。日常的な協働が円滑に展開し、校内外の支援におい

て効果をあげなければ、専門職を教員として学校に導入した意味はない。各特別支援学校では既にセンター機能として、支援担当者（教員）が地域支援を展開している。そこに専門職教員を加えることで、チームを強化し、校内外での支援を一層質の高いものにしていく。

以上、各提案内容のほんの一部をご紹介しますが、このように、全国から多くの校長が集まり、様々な新たな取り組みや学校経営の新たな取り組みなどを情報交換し合い、よりよい肢体不自由校づくりを目指して切磋琢磨し合っています。

（文責 全肢長会事務局）



第28回（平成21年度） 肢体不自由児・者の美術展 入賞者表彰式

平成21年12月3日（木）に肢体不自由児・者の美術展が東京の池袋芸術劇場大ホールで行なわれました。

当日はあいにくの雨模様でしたが、全国から入賞者が集まってくれました。

表彰式は日本肢体不自由児協会の名誉総裁であられる常陸宮殿下の御臨席を賜り、粛々と執り行なわれました。

障害の重いお子さん達も、静寂に少し緊張しながら、ご自分の表彰を待ちます。身体が不自由でも、夢のある作品や力強い書画もあり、作品を拝見するたびに感銘深いものがあります。



全国肢体不自由特別支援学校PTA連合会賞は次の方です。

（絵画の部）

大阪府藤井寺支援学校（中3）

宇都誠人さん

長崎県諫早養護学校（高3）

舩元慎史さん

平成22年も春から、また募集が始まります。詳細は日本肢体不自由児協会のHPにも掲載されますので、こちらへお問い合わせください。全国からの作品をお待ちしています。

第32回 全国特別支援教育振興大会

平成21年12月4日（金）東京の代々木にあります。国立オリンピック記念青少年総合センターにおいて、全国特別支援教育推進連盟と文部科学省ならびに（独）国立特別支援教育総合研究所の主催で、振興大会が行なわれました。

主題 特別支援教育の更なる充実をめざして

（教育、医療・保険、福祉、労働関係機関と家庭、地域との連携）

当日は、特別支援教育課の斎藤尚樹課長があいさつをされ、今の特別支援教育の現状などを踏まえ、行政説明をいただきました。



また、厚生労働省の障害福祉課からもごあいさつと行政説明をいただきました。教育の為の振興大会ですが、教育と福祉は一對となって話し合われます。

協議提案は7本、各種別の団体から発表されました。その内の提案2では、全肢P連濱川浩子会長から「肢体不自由の子ども達をとりまくネットワークとは」〈保護者（PTA）として思うこと〉

「私達保護者はPTA活動を通して、子ども達のネットワークが必要と強く感じています。元気な肢体不自由も重い障害をもった子ども達も、生きがいをもって豊かなライフステージが送れるように…」濱川会長からの発表は、毎年行なわれる全国大会の分科会の内容に触れ、東京ではあきる野学園で、数年前から取り組まれているあきる野クラブの紹介を同校の朝長PTA会長からもお話をいただきました。